

幼児の社会生活能力の実態

研究第8部 湯川 礼子

I はじめに

子どもが乳児期における両親に保護された状態から少しずつ発達成長し社会生活に適応していくためには、身辺生活の自立、危険からの防衛、対人関係、生活範囲の拡大、集団活動への適応などさまざまな社会的な生活能力が必要とされるが、現在の日本は居住環境や遊び場の狭少、交通量の増加など子どもを取り巻く環境は良好とはいえない。また子ども数が少ないための親の過保護や干渉しすぎが問題にされる反面、幼稚園や小学校、保健所、その他マスコミを通じて社会教育が行きわたり幼児期から生活習慣の自立や、社会性の問題、安全教育についての知識が豊かで子どもに適切な配慮を払っていることもみられるので、実際に幼児がどの程度の社会的な生活能力をそなえているかの実態を調べることとした。

II 方法

1. 対象

都内大田区A幼稚園の3歳から5歳 156名である。

表1 調査対象

	男	女	計
3歳	12	10	22
4歳	51	17	68
5歳	32	34	66
計	95	61	156

2. 手続き

幼稚園を通じて質問紙を配布、母親に記入してもらい回収する方法をとった。回答は欠席児を除き全園児である。

調査項目は日常観察される行動で母親が比較的容易に判定できる問題を選択し、基本的な生活習慣の自立や道具の使用、対人関係、自己統制などを含む58問である。(表5)。記入方法は一つ一つの問題に、子どもが無理にさせればできるのではなく日常生活でしていることを○印、ふだんしていないこと、またそういう機会があっても多

分できないことを×印として判定記入してもらった。

III 結果及び考察

1. 対象児の背景

調査対象となった幼稚園は国電大森駅から羽田に行く途中にあり昔は大森特産の海苔づくりをしていたところで、現在もその名残りで海苔の製造・卸を職業として古くから住みついている人たちが多く土地柄である。園児の家庭も海苔製造の家庭では三世代家族や敷地内に親戚が数家族住むという家族形態も珍しくなく、一方アパートには核家族が多いという新旧まざったところである。

同胞数はひとりっ子は全体の13.5%、2人きょうだい66.5%、3人きょうだい18.7%、4人きょうだい1.3%で平均きょうだい数2.1人で全国平均と変わらない。

登園は歩いて通うものと親に自転車に乗せてもらって通うものが相半ばし、時には自家用車を利用するものが4名であり都内の平均的な幼稚園児といえることがきょう。

2. 各項目通過率(表5)

まず食事、排泄・着衣・清潔など基本的な生活習慣をみるとかなり早くから自立していることがわかる。食事に関しては3歳児では「バナナやみかんの皮をむいて食べる」ことができ、「おとなに食べさせてもらわなくても箸を使って食事」をすることができる。また「親にいわれれば家族の箸や食器を食卓に並べ」(3歳77%)、「食べ終わったら自分の食器を流しに下げる」(3歳59%、4歳66%、5歳74%)こともできるようになる。

排泄についてみると3歳児では「自分でパンツをとって用が足せる」のはほぼ全員の93%である。「大便の自立(紙を使って後始末までできる)」は3歳50%、4歳は87%で5歳までにはひとりでもできるようになる。そして5歳児ではいちいち親にいわれなくてもさっさとお手洗に行くようになり排泄に関しては自立したといえる。

着衣についてみると最近では衣生活が変わりTシャツなど上からかぶるデザインが多く、ボタンの代りにマジックテープを使用している洋服もありボタンはめの機会は少

ないと思われるが、「上衣の前ボタンがはめられる」のは3歳児で68%あり、4歳児はほぼ全員(98.5%)ができるようになってきている。「簡単なふだん着を脱ぎ着する」のは3歳63.6%、4歳は97%で日常の着脱衣は5歳前に完全に自立している。

清潔に関してみると、「ひとりで手が洗える」のは3歳児で100%できる。「顔が洗える」のは3歳児91%、4歳児97%であり、3歳児の通過率が他の資料と比較して非常に高率となっている。「歯みがき」は3歳82%、4歳99%で、3歳でほとんど歯みがきの習慣がつくとみられる。「鼻がでたらかむことができる」のは「歯みがき」同様に3歳児82%、4歳児87%、5歳94%と年齢により上昇しているが3歳で自立したといえる。この項目も3歳児の通過率が「洗面」同様に他資料より高くなっている。「髪を櫛やブラシでとかす」のは3歳児68.2% (男58.3, 女80.0)、4歳79.4% (男74.5, 女94.1)、5歳92.4% (男84.4女100%)である。「入浴時にからだを洗う」のは3歳50.0%、4歳73.5%、5歳92.4%である。清潔に関する習慣が身につくのは4歳から5歳にかけてということができよう。

道具の使用や作業についてみると、「はさみで簡単な形が切り抜ける」のは3歳64%、4歳では94%ができる。雨傘をひろげたりつぼめられるのは3歳児で77%と予想以上に早い。これはワンタッチでひろげられ、閉じる際に指がはさまらないよう改良されたためであろう。「タオルや雑布がしぼれる」子が少なくなったといわれているが、今回の調査では4歳児63%、5歳児85%できているが、これはおとなの巧拙の評価の問題が影響するであろう。「ナイフやカッターを使って厚紙を切る」のは5歳児で42%ある。「ひもで蝶結び」できるのは5歳児で27%と少ない。これはおとなの日常生活でもひもを結ぶという機会が少なくなり、幼児にとって学習のチャンスがないことが影響しており当然の結果とみることができよう。「遊んだあとの玩具の片づけ」は3歳68%、4歳79%、5歳91%である。「時どき炊事の片づけを手伝う」のは5歳71%であるが3歳でも41%あり、仕事として手伝うよりむしろ子どもにとっては遊びであろう。「園から帰宅したら鞆など持ち物を整理する」のは4歳5歳とも90%強で低率である。また「時々自分の布団をたたんだりベッドの整理をする」のは5歳児でほぼ半数の55%であり従来の資料に比べ通過率が低い。「パジャマや洋服を脱ぎっ放しにしない」のは5歳児22%であり生活習慣の自立は早い、片づけなどの後仕末については親にいわれてやるか、親が手伝ってやることができ、自立は遅れているとみることができよう。

その他の項目をみると「電話で簡単な応待や取り次ぎ」が4歳児で100%となっており、電話の普及率の高さを物語っている。「順序を守って乗り物に乗ったり右側通行を守る」「交差点を信号通りに渡れる」のも高率で、現在の交通・道路事情から身を守るための安全教育が熱心になされているのであろう。しかし「ひとりで友だちの家や遊び場に行ける」のは行動範囲の拡大する5歳児が85%であることをみると、都心の交通量ののげしいところではこの値はもっと低いことが予想され自由に友だちの家に行き来できないことは問題であろう。「少額ならお使いに行かれる」のは4歳児で80%強あり生活経験の広がりを見せている。「ひとりで留守番できる」「行きなれたところなら1kmぐらいの所へひとりで行ける」は共に4歳47~8%、5歳62~3%で母子密着の状態から少しずつ独立していくのがうかがえる。

3 男女差

まず男女差をみるために一問題合格毎に一点を与え、各個人の合格点を出し年齢別、性別に平均得点を算出した。年齢別にみると表2のように3歳から4歳にかけて急速に成長して10点以上の伸びをみせている。3歳男子は得点が最低11点から最高44点に及びばらつきが大きい。4歳、5歳とも有意な差で女子の方が高くなっている。

表2 年齢別・男女別得点

	3歳		4歳		5歳	
	男	女	男	女	男	女
人数	12	10	51	17	32	34
平均	25.00	28.60	35.70	39.94	39.09	42.26
標準偏差	9.70	5.52	5.99	6.05	5.48	5.35
男女差 5%水準				*		*

次に各項目ごとの通過率を5歳児について男女差をみると表5の右欄に示したように58問中7問題が5%水準の有意差で女子の方が高くなっている。

問題の内容をみると「食器を流しに下げる」「髪をとく」「お客に行ったらしばらくは行儀よくしてすぐに帰ろうなどいわない」「時どき炊事の片づけを手伝う」「いわれれば部屋の掃除をする」「ひもで蝶結びする」「手紙を出す」の7項目であり、食器を下げたり炊事の片づけ、髪をとくことは女子の方により興味が強いとみられ家庭内において同性の母親をモデルとしての行動であるために、女子の方が高いとみることができよう。僅かに1問のみ男子の方が有意な差をもって高いのは「金づちやドライバーが使える」という項目であって、これ

も家庭内において通常みられる父親の役割をモデルとしていることがうかがえる。その他の項目では有意な差はないがほとんどすべての項目で女子の方が通過率が高くなっている。しかし基本的な生活習慣は男女とも幼児期に身につけ小学校入学までに確立していくといえよう。

4 得点上位群・下位群の比較

5歳児において得点の低いものと高いもので各項目ごとに通過率の有意差検定を行なった。その結果有意差のあった項目は表3に示す通りである。得点下位群は最低得点28点から38点までのもの24名と上位群は44点から最高51点までのもの23名であり、平均年齢は下位群5歳8か月、上位群5歳9か月である。

有意差のあった項目内容をみると「食器を下げる」

表3 5歳児上位、下位群の比較 5%水準

	上位群 N=23	下位群 N=24
(16) 小さなけがならすぐ泣かずにがまんすることができる	100.0	62.5
(20) 食べ終わったら食器を流しにさげる	91.3	50.0
(27) 4kmくらいなら疲れず歩ける	87.0	45.8
(28) 自動車の通る道やふみきりをひとりで歩いても危なくない	95.6	50.0
(29) ときどき自分の寝具を片づけたりベッドの整理をする	73.9	33.3
(31) 小さなけがなら自分でくすりをつけて手当する	95.6	37.5
(32) お客に行ったらしばらくは行儀よくしてすぐ帰ろうなどいわない	100.0	50.0
(33) 順番を守って乗り物にのったり右側通行できる	91.3	62.5
(35) 時々炊事の片づけを手伝う	82.6	50.0
(38) 少額なら近所の店にお使いに行ける	100.0	75.0
(37) ひとりで友だちの家や遊び場に行ける	100.0	75.0
(39) 洋服がぬれたり汚れたらいわれなくてもひとりで着かえる	95.6	58.3
(41) なれた1kmくらいの所ならひとりで歩いて行ける	91.3	37.5
(42) 園から帰宅したら持ち物を片づける	65.2	12.5
(43) いわれれば自分の部屋の掃除をする	60.9	12.5
(45) 温度に合わせて自分で衣服の調節ができる	65.2	16.7
(46) ひもで蝶結びができる	65.2	4.2
(49) トランプなどの勝負を楽しむ負けてもすぐ怒らない	65.2	29.2
(50) 爪がのびたらひとりで切る 片手でもよい	47.8	8.3
(52) ナイフやカッターを使って厚紙を切る	65.2	8.3
(56) 友だちなどに宛名や文を書いて手紙をだすことができる	43.5	12.5

布団をたたむ」「炊事の片づけ」「帰宅後の鞆などの持ち物整理」といった後始末に関するものが多い。また「4kmくらいは疲れずに歩く」「自動車が通る道をひとりで安全に歩く」「順番に乗車したり右側通行する」「少額のお使い」「ひとりで友だちの家に行く」「行き慣れた1kmくらいの場所へ歩いて行く」という行動範囲の広がりにより大きな差があり生活体験の多少が影響していると思われる。その他「小さなけがなら泣かずにがまんする」が上位群100%、下位群62%、「お客に行ってもしばらくは行儀よくしてすぐ帰ろうなどいわない」は上位群100%、下位群は半分の50%であり上位群の方が自己統制ができており、これは集団への適応度にも関係するのではなかろうか。食事・排泄・着衣・清潔などの生活習慣に関する項目では両群に有意差はなかった。両群について同胞数をみると両者に差はなく過保護になりがちなひとりっ子が下位群に多いということではなかった。つぎに登園方法、手伝いについて両群を比べると表4のようになっている。

表4 親の意識と上位群、下位群の比較

	通園方法		家の手伝い	
	徒歩通園	自転車通園	する	しない
下位群	54.2%	45.8%	12.5%	87.5%
上位群	82.6%	17.4%	30.4%	69.6%

自転車で通園する場合は交差点で信号を確認するのも子どもではなく親であり、自動車が通る道を安全に歩く訓練をする機会が少なく徒歩通園よりも親に依存する度合いが強い。また家族の一員として子どもの年齢に見合った家の手伝いをさせているのは上位群に多い。手伝いの内容は配膳、トイレトペーパーの補充、風呂桶に水をいれること、洗濯機をまわすこと、食器乾燥機の水を捨てることなど簡単なものではあっても子どもの自立という点について母親の意識の高さとみてよいのではなかろうか。

IV まとめ

以上幼児の社会生活能力について実態をみたが、食事や排泄、着脱衣、清潔などの生活習慣は他の全国調査の資料同様5歳ころに自立し小学校入学までに確立しているという結果を得た。

男女差では概ね女子の方が通過率が高く、特に食器を下げたり炊事の片づけなど家庭内においてみられる母親の行動を手本にした内容に顕著な差がみられた。また男子は父親をモデルとした項目が有意な差で女子より高く

なっており項目内容に男女の明瞭な差があった。またこの差は親が子どもに持つイメージの差、男子・女子に対する扱いや期待の差とみることもできよう。

5歳児における上位・下位群では食器の片づけや布団たたみなど物事の後始末に関するものと、友だちの家に遊びに行ったりお使いに行く等の行動範囲の大小に有意な差が認められた。また上位群は徒歩通園のものが多いためか交差点を安全に渡るなど危険から身を守る行動が下位群より高く文字通り足が地についた生活態度といえる。

生活習慣を含む生活能力の自立は子どもひとりひとりの成長や発達程度、成熟と深く関わりがあり単に技術の習得や自立の速速のみを問題にするのではなく、子どもの自発性、積極性、生活体験の貧富がより重要な問題であろう。子どもの自立の面で親の過保護を指摘されると親は実際に手助けする代りに言葉での指示や命令が多くなることも考えられる。例えば3歳児の高率な洗面などは技術的にできるということを判定したのではなかろうか。今回の調査ではできる、できないという評価ではなく、日常生活でしているかという点に主眼をおいたが母親の判定記入が正確かは疑問であり質問紙の限界といえる。

5歳児で友だちの家にひとりで自由に行くのは上位群は全員の100%で下位群と有意な差があった。都会では電車通園の子どもも少なくないがこの場合、近所にひとりで行き来できる友だちはなく、親同志の話し合いで友だち遊びのチャンスがきめられることになる。また習いごとのためにお互いの時間帯が合わず自由に遊びに行くことができない子もあり、社会性をはじめ自発性や自己統制が養われる幼児期に自由な友だち遊び、友だち遊びの機会が妨げられることは大いに問題とすべきであろう。

文 献

- 1 牛島義夫「社会的な生活能力検査」昭和23年 明治図書
- 2 旭出学園教育研究所・日本心理適性研究所「S—M 社会生活能力検査」昭和55年 日本文化科学社
- 3 子どもの発育研究グループ「コンピュータ子どもの発育総合診断」昭和56年 千代田生命
- 4 日本保育学会「日本の幼児の精神発達」昭和45年 フレーベル館

表5 年齢別合格率

問 題	3歳 N=22	4歳 N=68	5歳 N=66	5歳・男 女差5% 水準男=34 女=34
(1) 排尿の前に教える	100.0	100.0	100.0	
(2) 頼めば新聞をとって くるぐらゐの用事をする	100.0	100.0	100.0	
(3) ひとりで靴をはく	100.0	100.0	100.0	
(4) ひとりで手を洗う	100.0	98.5	100.0	
(5) 食べさせなくてもひとりで食事を する	95.5	100.0	100.0	
(6) 自分でパンツをとって用を 足す	95.5	100.0	100.0	
(7) バナナやみかんの皮がむける	90.9	98.5	100.0	
(8) 前開きの上衣が脱げる	86.4	98.5	100.0	
(9) 顔が洗える	90.9	97.1	100.0	
(10) 箸を使って食べる	77.3	97.1	100.0	
(11) 歯をみがく	81.8	98.5	100.0	
(12) 上衣の前ボタンがはめられる	68.2	98.5	100.0	
(13) 日常の挨拶ができる (こんにちは、ありがとうなど)	81.8	95.6	97.0	
(14) 鼻がでたらかむことができる	81.8	86.8	93.9	
(15) いわれれば家族の箸や茶わんなど食卓に並べられる	77.3	95.6	93.9	
(16) 小さなけがならすぐ泣かずにかまんすることができる	72.7	85.3	81.8	
(17) ふだん着はひとりで脱ぎ着できる	63.6	97.1	100.0	
(18) 遊んだあとの玩具を片づける	68.2	79.4	90.9	
(19) はさみで簡単な形なら切り抜ける	63.6	94.1	100.0	
(20) 食べ終わったら食器を流しにさげる	59.1	66.2	74.2	*男<女
(21) 大便がひとりでできる、紙で後始末できる	50.0	86.8	92.4	

湯川：幼児の社会生活能力の実態

問 題	3 歳 N=22	4 歳 N=68	5 歳 N=66	5歳・男 女差5% 水準男=34 女=34
(22) 簡単な室内ゲームができる	54.5	91.2	98.5	
(23) 傘をひろげたりつぼめられる	77.3	92.6	100.0	
(24) 電話で簡単な応対ならでる	68.2	92.6	87.9	
(25) 行きたくなったらおとなの手をわずらわさずにお手洗に行く	72.7	95.6	98.5	
(26) 髪がとかせる	68.2	79.4	92.4	*男<女
(27) 4kmぐらいなら疲れず歩ける	50.0	69.1	65.2	
(28) 自動車の通る道やふみきりをひとりで歩いて危なくない	18.2	39.7	75.8	
(29) 時どき自分の寝具を片づけたりベッドの整理をする	13.6	47.1	54.5	
(30) 入浴のとき自分でからだを洗う	50.0	73.5	92.4	
(31) 小さなけがなら自分でくすりをつけ手当する	45.5	52.9	68.2	
(32) お客に行ったらしばらくは行儀よくしてすぐに帰るうなどといわない	54.5	77.9	77.3	*男<女
(33) 順序を守って乗物に乗ったり右側通行でる	50.0	64.7	78.8	
(34) 交差点を信号通りに渡れる	59.1	83.8	97.0	
(35) 時どき炊事の片づけを手伝う	40.9	61.8	71.2	*男<女
(36) 少額なら近所の店にお使いに行ける	40.9	80.9	85.4	
(37) ひとりで友だちの家や遊び場に行ける	31.8	77.9	84.8	
(38) タオルや雑巾がしぼれる	13.6	63.2	85.4	
(39) 洋服がぬれたり汚れたらいわれなくてもひとりで着がえる	13.6	58.8	78.8	
(40) 一時間ぐらいならひとりで留守番でる	13.6	47.1	62.1	

問 題	3 歳 N=22	4 歳 N=68	5 歳 N=66	5歳・男 女差5% 水準男=34 女=34
(41) なれた1kmぐらいの所ならひとりで歩いていける	22.7	48.5	63.6	
(42) 園から帰宅したら持ち物を片づける	13.6	30.9	31.8	
(43) いわれれば自分の部屋の掃除をする	13.6	11.8	25.8	*男<女
(44) 金づちやドライバーが使える	4.5	29.4	27.3	*男>女
(45) 温度に合わせて、自分で衣服の調節ができる	13.6	39.7	43.9	
(46) ひもで蝶結びができる	0	5.9	27.3	*男<女
(47) いわれなくても洋服やパジャマを脱ぎ放しにしない	4.5	20.6	22.7	
(48) 毎日きまった家の手伝いをする	13.6	25.0	15.2	
(49) トランプなどの勝負を楽しむ、負けてもすぐに怒ったりしない	4.5	22.1	47.0	
(50) 翌日着るものを自分で選んで準備する	13.6	11.8	25.8	
(51) 爪がのびたらひとりで切る、片手でもよい	4.5	17.6	22.7	
(52) ナイフ、カッターで厚紙が切れる	4.5	29.4	42.4	
(53) 目上の人には丁寧な言葉を使う	4.5	13.2	12.1	
(54) 年下の子の世話やお守りが安心してまかせられる	4.5	14.7	27.3	
(55) 毎日自分の寝具の片づけ、ベッド整理をする	0	8.8	7.6	
(56) 友だちなどに宛名や文を書いて手紙をだすことができる	0	0	22.7	*男<女
(57) ガスや電気コンロを使ってお湯がわかせる	0	1.5	7.6	
(58) なれているところならひとりでバス電車を使得て行ける	0	0	0	